



初詣風景 (多賀大社)

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は自治会活動につきまして、格別のご理解とご支援を賜り誠に有難うございました。心より厚く御礼申し上げます。

昨年を顧みますと、圃場整備事業も全面的にはほぼ完成に至り、9月からは、暗渠排水の工事がなされ年内に完了、並行しての環境整備では農道の舗装、東町、西町の裏川の集落内の水路工事、また肥田城跡、及び山王祠の再建などの環境整備についても平成22年内に完成いたしました。

尚、肥田城跡及び山王祠の再建の整備費用につきましては、広く町内有志の皆様にご寄付をいただいております。

また、展開中の肥田町まちおこし推進協議会の活動も、5ヵ年計画の本年が締めめの年に入りました。皆様には相変わらぬ御支援、一層のご支援とご協力のほど御願ひ申し上げます。

町の環境美化の行事として努めて参っております。宇曾川堤防の草刈り、公園周辺の除草作業等も少子高齢化の進捗もあり、皆様にもご苦勞を掛け心配してまいりましたところ、生産組合の方々の御力添えを仰ぎ、新しい草刈り機を活用、大きな草刈り作業は前以て生産組合の方で作業いただき、自治会による作業へのご助力を御願ひ致しております。

最後となりましたが、本年が皆様にとっても肥田町としても良い年でありますようにご祈念申しますと共に、皆様のご健勝とご多幸を申し上げます。新年のご挨拶といたす。



hida
広 報
ひだ
町 木



第57号
肥 田 町
まちおこし推進協議会
H23.1.1 発行



おめでとう
ございませう
平成23年元旦

おめでとうございませう。
益々のご発展をお祈り申します。

成人		還暦		古稀	
平成2年生		昭和26年生		昭和17年生	
薩摩 裕大	成宮 まゆ	藤野 艶子	宮川 光子	藤野 一成	山本 長利
伊関 悠佳	伊関 邑香	小室 久栄	西田 操	筒井 弘子	藤野 まさ子
喜寿		傘寿		米寿	
昭和10年生		昭和7年生		大正13年生	
川松 芳子	藤野 英子	藤野 良一	元持 四郎	成宮 伊蔵	筒井 和吉
鹿島 節子	森野 久子	薩摩 かず子	成宮 佐吉	成宮 伊蔵	筒井 和吉



平成23年 成人の日 を迎えて



薩摩 早紀さん (父 薩摩隆司さん)

新年明けましておめでとうございます。今日まで多くの方々に支えていただき、成人の日を迎えることができました。これまでに会った方々の優しさへの感謝の気持ちを忘れず、また、今まではその優しさに甘え、許されて来ましたが、これからは大人としての自覚と責任を持ち、過さず生きていきたいと思います。まだまだ未熟な私ですが、これからもどうぞよろしくお願い致します。



薩摩 裕大さん (父 薩摩乃史さん)

新年明けましておめでとうございます。二十歳を迎えられた感謝の気持ちを忘れず、自分自身の行動に責任をもって日々、仕事に励みたいと思っておりますので、これからどうぞよろしくお願い致します。



成宮 まゆさん (父 成宮克豊さん)

明けましておめでとうございます。私が成人して心げたいことは、外見だけでなく内面ともに成長し、責任ある行動をとることです。また、自分の世界を広げるため、興味を持ったことには、積極的に挑戦していきたいと思っております。



伊関 悠佳さん (父 伊関新一さん)

明けましておめでとうございます。成人になるにあたって、私は次の二つのことを心掛けたいと思っております。まず一つ目は、周りの人にも感謝すること。ひとりではできないこと、一緒にいてくれる人のおかげでできること、誰かが一緒にいてくれるからいえること、二つ目は向上心とやる気をもって興味あることに一生懸命になること。最近、夢のない大人が増えているとよく聞きますが、私は、たとえ小さくても夢や目標を持って毎日を送りたいです。自分の狭い世界をどんどん広げて、まだ知らない世界を広がりたいです。私が今興味をもっているのは、語学です。行きたい国や地域の言語に触れ、その言葉を使っていつか世界の人々と活発に話したいと思っております。



藤野 邑香さん (父 藤野恵俊さん)

おめでとうございます。いよいよ大人の仲間入りです。今後は何事にもチャレンジ精神を忘れず、努力していきます。



伊関 寛英さん (父 伊関健司さん)

次号でご紹介します。

新 春 特 別 寄 稿

こま（独楽）遊び

元 持 亘

パッと目を覚ます。枕元に「こま」と「みかん」。子どもの頃のクリスマスプレゼントである。赤や青、白や緑の二重・三重円の描かれたこまは最高のプレゼント。まず、弟を起こし、二人でふとんから頭を出して、みかんを食べる。果汁がジュワッと甘く冷たくて、おいしかったのを鮮明に覚えている。こんな行儀の悪いこともこの日だけは許された。

“もういくつねるとお正月 お正月にはたこ揚げて こまを回して遊びましょう”

こま遊びも畳の上は厳禁、家の土間か前の道、琴平さんの境内が遊び場である。土間は文字どおり土の間であり、道路は車も通らず安全ではあったが、地道の石ころだらけだった。鉄芯のこまは、回転するにつれて地面に穴を掘りすぐに止まってしまう。琴平さんの太鼓倉や会議所横の倉庫前がコンクリートだったが、雨どりの傾斜があってこまが横滑りしてとても苦労した。明けても暮れても、毎日毎日遊んでいる中に、だんだ

んこま回しがうまくなり、手のせ、綱渡り、手かけ・肩かけ・腰かけ・ふんどしかけ・・・等高度な技ができるようになると、ますます夢中になった。

幼少時のクリスマスプレゼントとこま遊びが、私の「こま収集」の原点になっている。

こま（独楽）は、独り立ちを楽しむと書くように、一昔前までは、子どもの健やかな成長を願い、お祝いに贈られたそうである。

ひねりこま、糸引きこま、ひも投げこま・・・等 私のこま収集歴も30数年、家族、友人、知人の協力を得ながら、日本と外国のものを合わせて、1000個を超えた。退職後趣味をかねて、自分のできることをできる時にと、幼稚園、保育園、小学校、公民館、子ども会、老人会等に出向いて、こま遊びと人とのふれあいを楽しんでいる。

子どもは国の宝、地域の宝。大きく、大きくなあれ！



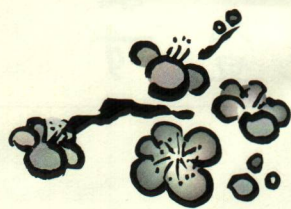
近くて遠い、私の「ふるさと」

東近江市今町在住 西村（松枝）明子

「ふるさとは 遠くにありて 想うもの」と言われます。私の場合はそんなに遠くありませんのに、歳を重ねるにつれて懐かしさが募り、いろいろと昔のことを思い出しています。

戦時中、小学生であった私は、よく母に連れられて桑畑に行き、荒れ地を開墾して芋や野菜を作りました。「クンハラ」とか「テラユ」とか「ナカジマ」という名前を覚えています、あの辺りは今頃どうなっているのかしらと、いちど訪ねてみたいくらいです。宇曾川が広がったとかで、今はもう見られないかも。新聞の「お悔やみ欄」などを注意して眺めていますと、次々と懐かしい人が鬼籍に移られていくので、ほんとに淋しい思いがします。

花嫁衣装に身を包み、皆さんに見送られて肥田の村を離れてから、早くも五十年が、夢のように過ぎていきました。嬉しかったこと、悲しかったこと、淋しかったこと。今はそれらを懐かしい思い出として、主人と語り合っている昨今です。



私にとっての「肥田」という村

東近江市今町 興福寺 西村 恵信（元 花園大学学長）

十人兄妹の末っ子であった私は、二歳のとき、昔の五個荘町石馬寺という村の農家から、この寺に貰われてきたのです。昭和十五年ですから小学校へ入る前の年、近所の小母さんから「おばちゃんは、あんたの本当のお母さんを知ってるよ」と言われて、びっくり仰天しました。

それからは何とかして自分を産んだ本当のお母ちゃんが見たいものだと思いますが、後で考えてみれば、母の「すて」はその年の一月十四日に死んでしまっていたのです。旧制の彦根中学校へ入るとき戸籍謄本を見ましたら、母の故郷は稲枝村肥田の「薩摩」という家であることが分かりました。

私にとってそれからは「肥田」という在所は、育ての両親にはこっそり内緒の大事な村になりました。子どもの私は、それが岐阜県の飛騨（ひだ）であっても、「ヒダ」という名前を聞くだけでも胸がドキドキしました。

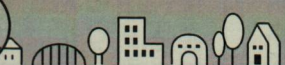
二十六歳のとき、私の村のある人が、「肥田のお寺に、松枝明子さんという人があるから、一度お見合いをしてみませんか」と言われたのです。私はいっぺんに嬉しくなり、「ぜひ結婚させてください」と頼みました。肥田の女性と聞けばもう、どんな人でも良かったのです。「とうとうお母ちゃんが僕のところへやってくるんや」と、その日を待ち焦がれました。

こうして私は興輪寺の明子さんと夫婦になり、毎日「自分の母」と一緒に暮らしてきました。今年私たちは「金婚式」を迎えました。私は七十七歳、明子さんは七十五歳という老夫婦。お陰で私たちは三人の子どもと、十人の孫たちに恵まれ、二人で肥田の方を拝みながら、静かな老後を送っています。肥田の皆さん、本当に有難うございます。



写真で見る

町の活動特集

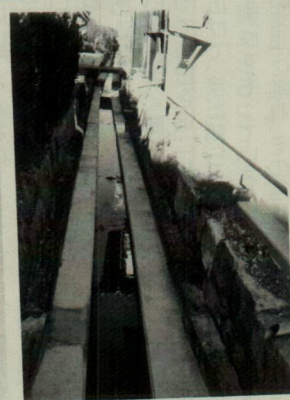
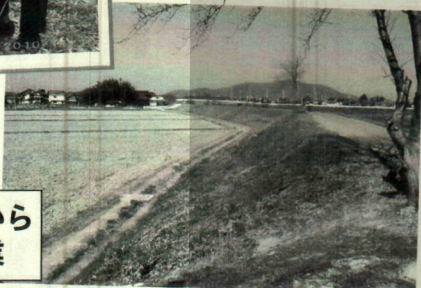


お魚観察会



宇曾川堤防、高橋から8号線まで除草作業

ホタル川筋の植栽作業



町内裏川水路の凹型改修



イワダレ草による法面の美観100m